

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900119		
法人名	医療法人 啓信会		
事業所名	グループホーム リエゾン羽束師		
所在地	京都府京都市伏見区羽束師古川町168-1		
自己評価作成日	平成30年11月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2690900119-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2690900119-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が住み慣れた地域で自分らしく過ごせるように、1人1人の思いを大切にケアを心がけ、安心して楽しく暮らして頂けるように努めています。散歩や買物に出かけ近隣の方と挨拶を交わしたり、季節ごとの行事や外食、おやつを食べに出かけたり生活に楽しみをもてるようにしています。協力病院も近隣にあり必要に応じ受診、往診の対応も可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域と共に支え合いゆつくり楽しく暮らすことを理念に謳い、地域への外出や買い物、地元神社への初詣や祭りへの参加の他、併設事業所と一緒に夏祭りには地域の方の参加を得て一緒に楽しむなど交流の機会を多く持ち、アニマルセラピーや銭太鼓等のボランティアの来訪もあり地域との良好な関係を築いています。職員は「おはようございます ありがとうございます 失礼します すみません」という言葉を常に忘れず連携良く日々の業務に当たっており、随時のミーティングや申し送りノート等で情報を共有し、働きやすい職場環境の中で離職も少なく利用者との馴染みの関係を築いています。また、折り紙や塗り絵、食事の支度、洗濯物干し、掃除等利用者一人ひとりのできることを引き出しそれぞれの利用者のペースに合わせてその人らしく暮らせるよう支援をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口に展示しミーティング時に唱和し、再確認している。	ホーム独自の理念をエレベーターホールやフロアに掲示すると共に毎日申し送り時に唱和し常に理念を意識できるようにしています。新任入職時にはホームが目指す方向性として理念に対する思い等を説明しています。理念を基に自身の目標と利用者の支援に対する目標を立て半期毎に振り返りを行い理念の実践に向け取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(羽東師神社の祭り)、事業所の夏祭り、体操クラブに来ていただいたり、散歩や買物時の挨拶等や会話にて地域との繋がりを持てるように努めている。	地域との関わりを大切にしており、散歩や買い物に出かけることが多く、出会った方と挨拶や会話を交わしています。近くの神社の祭りに出かけたり、地域包括支援センターが行うすこやか学級等に参加しています。併設事業所と合同で行う夏祭りや体操クラブに地域の方の参加を得たり、アニマルセラピーや銭太鼓等のボランティアの来訪もあり地域との関わりが広がるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し、ご利用者の様子や状況・事故報告等を行い、ご利用者・ご家族・地域の役員の方より意見を頂いている。	会議は自治連合会副会長や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。運営状況や行事、事故報告等を行い意見交換をしています。地域の防災大会や避難場所等についての情報をもらったり、得られた意見からAEDを設置するなど有意義な会議となっています。家族には毎回会議の案内をしており、議事録については玄関に置き閲覧できるようにしています。	知りたいことをテーマをあげて開催する等、家族の参加が得られたり意見をもらえるような働きかけをされてはいいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方と密に連絡を取るような事はないが、包括支援センターの方と連絡を取り協力関係を築くように努めている。	運営推進会議の議事録を直接区役所に届けており、わからないことがあれば相談したり電話でも聞いています。郵送やファックスで会議や研修の案内が届き職員の希望に応じて参加しています。食中毒や感染症など注意喚起のポスターなども届き掲示し職員に周知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所にて身体拘束禁止マニュアルを作成し、外部研修・内部研修にて理解を深め取り組んでいる。事故防止の為に入口施錠をしているが、ご利用者の希望に応じ職員と共に外出や他の階に行けるようにしている。	年1回法人内の身体拘束に関する研修を受け、全職員に伝達すると共に毎月身体拘束適正化委員会の中で事例などを話し合い運営推進会議で報告をしています。安全な見守りをするため家族の了承を得てセンサーを使用している利用者がいますが、申し送りノートの中で意見交換し検討し、現在外す方向で考えています。外に出たい希望がある場合は職員が付き添い散歩をするなど気分転換を図っています。	

グループホームリエゾン羽束師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて理解を深め、見過ごされないよう職員同士意識しておく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修にて理解を深め、必要であれば話し合いをして活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学をして頂き、家族の不安や疑問に答えている。契約時、改定時に説明を行い理解・納得してから契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し誰でも投函できるようにしている。面会の際など家族に意見・要望の聞き取りを行ったり、アンケートを行い運営に反映できるように努めている。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞いており寿司など食べたい物の要望があった場合は少人数で外出に出かけるなど反映しています。家族からは法人で行うアンケート調査の他、面会時等には日々の様子を伝え要望を聞くようにしています。洗濯後の衣類の間違いについて意見があり、確認を強化するよう職員へ注意喚起をするなど得られた意見を反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやキャリアパスの面談時に意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように努めている。	職員の意見や提案は随時のミニミーティングや申し送りノート、年2回の個人面談、日々の業務の中で聞いており、食事や行事担当者等からの意見が上がることもあります。職員からの提案で漂白剤の種類を間違えないよう容器の区別をしたり、利用者の微妙な変化も見逃さないようにケアの方法などについても都度話し合い申し送りノートで共有しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標管理シートや人事考課表・面談を通じて聴き取りを行い、各自が向上心をもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に参加し、外部研修の貼り出しをして希望があれば参加している。また、伝達講習を行い、参加できなかった職員に伝達している。		

グループホームリエゾン羽束師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各地のグループホームと月1回交流をし、情報交換や勉強会を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人より情報収集し、入居後も日々、困っていること・不安な事・要望等に耳を傾け本人の安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向、希望を聞きとり、必要とされるサービスも含め対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除など役割を持ってもらい職員と一緒に時間を共有し、生活できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に普段の生活の様子や身体状況等の報告をし、要望や不安等を聴き取り、共に本人を支えていけるよう努めている。また家族と居室で過ごしていただいたり、外出したりなど家族と一緒に過ごして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出など自由にして頂けるよう努めている。	会社に勤めていた頃の同僚や友人等の来訪時にはお茶や椅子などを用意したり、日々の様子を伝えるなどゆっくりしてもらえよう配慮しています。馴染みの神社に出かけたり、ホームの近隣に自宅のある利用者は散歩や買い物時に知人と会うこともあり会話を楽しんでいます。家族の協力を得て自宅に帰ったり、毎月自宅に外泊する利用者もあり、身支度の準備等出かけるまでの支援を行っています。	

グループホームリエゾン羽束師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係や身体状況を考慮してテーブルの配置をしたり、職員が間に入り孤立やトラブルを回避できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聴き取りをしたり、日々の様子を記録に残したり、コミュニケーションにより希望、意向の把握に努めている。	入居前に自宅や病院等本人が暮らしている場所へ出向き面談をし、生活歴や身体状況、家族構成、意向、要望等本人や家族から聞き取り、利用していたサービス事業所やケアマネジャーからの情報も得て思いの把握に繋げています。入居後は日々の会話の中で気づいたことや何度も会話にあがる内容や言動から思いを汲み取り介護記録に記載しミニミーティング等で話し合い職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族に入所前の面談や日々の関わりを記録に残したりして生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状況を個別記録に残し、申し送り、送りノート等活用して個々の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族にも意向を聴き取りモニタリング、ミーティングにて介護計画の見直しに活用している。	本人や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成しています。介護記録を確認したり職員からの意見をまとめ毎月モニタリングを行い、1年毎に見直しを行っており、状況に変化が見られた場合は随時見直しています。見直しの際は再アセスメントとサービス担当者会議を行い家族や本人、職員の意見を聞き、必要に応じて事前に聞いた医師や看護師の意見も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、心身の状況等を個別記録に残し、申し送り、送りノートを活用して情報を共有、介護計画の見直しに役立てている。		

グループホームリエゾン羽束師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族としっかりコミュニケーションを取り、その時々状況に応じたニーズに対応できるように、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ボランティアの方に来ていただき歌や踊り等を一緒に行ったりしている。また外食、おやつを食べに行き、楽しんで頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の希望を取り入れ、必要に応じて職員が同行する事もある。かかりつけ医に必要な情報提供を行っている。	入居時に今までのかかりつけ医か協力医かを選択してもらい、全利用者が24時間連絡可能な協力医に変更しています。月2回の協力医の往診や看護師の訪問があり、緊急時は随時の往診や指示を仰いでいます。専門医への受診は家族が対応していますが、必要に応じて職員が同行することもあり、受診結果については口頭にて説明し共有しています。必要や希望により訪問訪問歯科を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程看護師が来所し、その時に体調の状態や気づきを報告、相談している。緊急時には、電話対応にて指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は入院サマリーを渡し、情報提供を行っている。面会を行い、医療機関より退院、今後の対応に関する情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に看取りについて説明している。重度化した場合、医師、家族、看護師、職員で話し合いを行い方針を共有し、支援に取り組んでいる。	入居時に重要事項説明書に記載されている重度化した場合の対応について説明しており、重度化した場合は医師から説明を行い意向の確認をしています。看取り支援の際は医師や家族、職員で話し合い方針を決め共有し、家族の頻回な面会など家族の協力を得ながら支援を行っています。職員は年1回法人内研修を受け理解を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の研修に参加したり、マニュアルを用意し、緊急時に対応できるようにしている。		

グループホームリエゾン羽束師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2、3回、日中・夜間、内容も火災・水害・地震等を想定し避難訓練を行っている。職員緊急連絡網を作成したり、食品の備蓄をしている。	年3回併設の事業所と合同で災害時の訓練を行っており、内2回は消防署立ち合いの下火災時の昼夜を想定し通報や初期消火、AEDの使用方法、避難誘導の訓練を行っており、近隣の方へ声をかけ、運営推進会議でも案内や報告をしています。1回は水害時の訓練を行い3階を避難場所と決め、その場所に米や乾パン、レトルト食品等の食糧やガスボンベなどを準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、プライバシー保護の研修に参加している。1人1人の人格を尊重しプライバシーの確保、言葉かけや対応をしている。	年1回接遇やプライバシー保護について法人内研修を受けた職員が伝達し周知しています。目上の人であることを意識し節度ある丁寧な言葉かけや対応に心がけています。呼称については基本苗字で呼ぶようにしていますが、同じ苗字の場合は下の名前で呼ぶこともあります。排泄や入浴介助時は希望があれば同性介助で行うなど羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いや希望に耳を傾け、自己決定しやすい言葉かけや環境作りを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の決まったことに対しての声かけをし、体調や様子に応じ1人1人のペースを大切にしながら、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、爪切り、髭剃り等、整容に気を付けている。衣類も本人の希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買物や準備、片付けをしている。希望を聞き外出に出かけたり、昼食レク、おやつ作りを利用者と一緒に行い、楽しんでいただけるように努めている。	朝夕の食事はホームで作っており食材の買い物に利用者と一緒に出かけたり、野菜の下拵えや盛り付け等できることに携わってもらっています。昼食は業者からでき上がったものが届き、温めて提供し職員も同じ食卓で食事を摂っています。月に1回は業者からの食事を止め昼食レクリエーションとして利用者と一緒に作ったり、外出などに出かける他、手作りおやつも楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病状、状態に応じた食事内容、食事形態の提供を行い、食事量、水分量に気を付けるようにし、少しでも摂取していただけるように工夫を心掛けている。		

グループホームリエゾン羽束師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣に応じて行って頂いたり、声かけに行っている。夜間には義歯を預かり義歯洗浄剤を使い、清潔を保っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄1人1人のパターンを把握して声かけ、支援を行っている。	立位が可能な場合はトイレでの排泄を基本とし、全利用者の排泄記録をとり、其々の排泄リズムを把握し仕草などのサインも見逃さないよう声かけや誘導を行っています。排泄用品や支援方法についてミーティングで話し合い現状が維持できるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩を取り入れたり、朝食時にヨーグルトを提供し、また水分補給を促したりしている。主治医とも連携を取り服薬調整して頂いたりして便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが希望、体調、用事等を考慮し臨機応変に対応している。	入浴は週3回を目安に日中に支援していますが、その時々状況や気分を見計らって声をかけており、希望があれば毎日の入浴や夜間も8時までであれば対応可能です。拒否される方には時間を変えたり、声をかける職員を代えるなど工夫をし無理のないよう入浴に繋げています。ゆず湯をしたり、職員との会話を楽しみながらゆっくりと入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状態、本人の習慣に応じて休息を取れるように支援している。また定期的にシーツ交換を行い空調にも配慮し、安眠できるような環境を提供できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効能書をカルテに挟んで職員が周知できるようにしている。1人1人に応じた服薬の支援を行い、変化があれば主治医や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の得意な事、生活歴の能力に合わせ家事手伝い等、役割をもっといただいている。また歌や塗り絵等を楽しんで頂き、好きな物を聴き取りおやつ、外食に行き気分転換ができるように努めている。		



グループホームリエゾン羽束師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物に出かけたり、季節ごとの外出、食事にも出かけている。その際家族にも声かけすることもある。家族との外出や外食の協力も得ながら支援している。	気候の良い時期は其々の利用者が週1~2回は近所の神社や農道、スーパーなどに散歩や買い物に出かけており、初詣や桜の花見、紅葉見学等の季節に応じた外出も行っていきます。家族と一緒に出かける利用者や少人数で喫茶店やフードコートなどに出かけることもありできるだけ外出の機会を多く作るようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて預からさせていただいているが、能力に応じて、買物・支払いの援助ができるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人に連絡していただく事に制限なく、希望に応じた対応を努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、利用者の方と掃除したり、季節感を取り入れた飾り付けの制作、展示を行っている。明るさや空調にも気を配り居心地良く過ごせるように心掛けている。	共用空間は季節毎に作成した利用者の折り紙や生花を飾るなど季節感に配慮し、行事や日々の暮らしの写真なども毎月貼り替えており、温かい雰囲気があります。周りの状況や相性などを考慮したテーブル席の他にもソファや椅子を随所に置き居場所を選ぶことができます。掃除や換気を日々行い加湿器を置き、温湿度計をチェックしたり利用者の体感にも配慮しながら過ごしやすい共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き職員や利用者同士の談笑、交流の場としている。また、1人になりたい時には、裏口近くにあるソファに座ったり、居室でも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物等を用意し、居心地良く過ごせるように努めている。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、筆筒やテレビ、ラジカセも傍に置き等持参され家族と相談しながら配置しています。家族の写真やハーモニカ等重要な物や趣味の物もそばに置き安心して暮らせるよう支援しています。畳の居室もあり、洋室にカーペットを敷き布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、のれんに名前があり、トイレには目印をしている。個々のできることを把握し生活リハ等を通して安全に自立した生活が送れるように努めている。		